

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270200203		
法人名	株式会社 菱南		
事業所名	ケアビレッジ須崎 (ユニット1 そよかぜ)		
所在地	静岡県下田市柿崎999-2		
自己評価作成日	平成28年8月23日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiryouvoCd=2270200203-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiryouvoCd=2270200203-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年9月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>①利用者一人ひとりの心身状態を見極めて、日常生活動作は出来る限り利用者本人に行って頂き、残存機能を活かしたケアを行っています。また、趣味・趣向に応じて家事や作業、レクリエーション等のアクティビティーケアを実施しております。</p> <p>②利用者本人が選択できる場を日常生活の中で取り入れ、利用者と職員が共感できる関係、笑顔が自然に表情に表れるようなアットホームでなじみの関係を築いています。</p> <p>③地域行事の参加、園児、小中学生との交流や、体験学習の受け入れ、ホームの行事に家族や地域の方々を招待するなど、地域との関わりを積極的に行っています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>「地域資源を生かし、またその魅力を引き出す」ことに長けた事業所です。従来より黒船祭りなど地元のほとんどの行事に出向き、生徒やボランティアの受入れ、防災訓練への参画etc...と精力的でしたが、近年の取組みとして「地域住民も交えた近隣施設との合同会議」や「西伊豆町や東伊豆町のグループホームとの交流、職員の実習派遣」等があります。本件においても認知症知識の啓発活動の一つの成果として位置付けていますが、一方法人では認知症カフェの設立も併せておこない、事業所でも協力するとともに、「利用者の新たな活力となれば」と期待を寄せています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が理念を理解し、答えられるような内容にしている。 新人職員には入職時にその理念を説明している。職員会議で理念に沿ったケアが出来ているかどうかの確認を行っている。	従来の理念が形骸化していたこともあり、3年前に全職員で見直した理念は、玄関にイラスト付きでカラフルに掲示されています。利用者のADLや意欲に応じて選択肢の幅を設け、家事や家庭菜園の手入れなどを職員と協働でおこなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のイベントや地区の祭り見物、中学生の福祉体験の受け入れ、保育園児や小学生との交流、ホームの行事や防災訓練等に地域の人の参加がある。	ハワイアンダンスや生徒の歌謡披露といったボランティア訪問、防災訓練への参加が粛々と継続される一方で、2ヶ月前には近所に同法人の認知症カフェがオープンし、身近なふれあいの場として活用に向け、期待が膨らんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護事業所や入居相談者からの認知症に関する相談対応、ホームにおける認知症のケアや支援内容、待機者状況を関係機関に説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの運営状況・サービス提供内容について報告し、会議録を家族に送付している。また、メンバーの意見を内部の会議で報告するだけでなく、職員から意見を聞き、サービスの改善に繋げている。	昨年までは区長の出席がりましたが、難しいとのことで近隣住民がバトンを引き継いでくれ、リハビリテーションの専門職としての発言に期待が膨らみます。メンバーからは「せっかく法人内にもう1つあるのだから…」と具体的な進言もあり、グループホーム間での交流も検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業代表者等が市に運営に関する状況を伝え、助言を頂いている。介護支援専門員連絡会ではホームの空き情報を伝え、運営推進会議では市職員にサービス提供内容を報告している。	地域包括支援センター(市直轄)が主宰する介護支援専門員連絡会や地域ケア会議にも積極的に出向き、また運営推進会議の案内及び議事録を市役所窓口へ毎回届けています。本年2月には認知症家族に向けた交流会の講師要請が市からあり、協力しています。	「4施設会議」が周知されて、行政による理解や協力が進むことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを推進している。 玄関は夜間のみ防犯や事故防止の観点から施錠している。 職員は内部・外部の研修に参加し、身体拘束に関する理解を深めている。	新入社員研修でも説明をおこない、知識の共有化を図っています。2階から1階までの階段が急なことから転落防止のため柵を設けており、出入りが自由とは言いがたいものの、長い廊下の歩行やテラスでの外気浴をきめ細かにおこなうことで、開放的な気分となるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員には、虐待について研修を実施している。虐待防止マニュアルを作成している。また、会議等で虐待をしないという共通認識を固めると共に、共有し、その事実がない事を確認し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加できる機会が少なく、個人で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、もしくは入居までに重要事項説明書や契約書の内容について説明し、不安や疑問についても聞き取り、納得して頂けるように十分な説明を行う事で内容の理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や月1回の手紙で、日常の様子を家族に伝えている。意見箱を設置し、家族の声に耳を傾けている。運営推進会議では家族代表から意見を伺い、ホームの改善に繋げている。	家族への便りは写真が映える見やすい構成です。「食事の内容を知りたい」との意見には、写真とメッセージ付きの献立表で速やかに応え、「嬉しかった」との言葉も届いています。真摯な対応で家族の信頼が厚いことが外部評価の家族アンケートでも確認されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常のケア場面で職員の意見を引き出すようにしている。管理者の意見を事業者に伝え、必要に応じて、事業者が職員に対し、ヒアリングを実施している。	会議では職員の本意が表出されにくいこともあり、議題を具体的に絞り込むことで活発な論議につなげています。また会議の場に限らず、管理者に意見が挙がっていて、法人代表が頻繁に来所していることから直接進言することもできます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者は、管理者から職員の意見や勤務状況の情報を得ることで改善できる事を実行し、働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や管理者が重要と判断した研修に限り、業務として参加して貰っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所合同研修会や介護事業所の連絡会に参加している。他のグループホームと互いに連絡を取り合い、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人や家族から不安や要望等について聞き取りを行い、不安を取り除くような説明をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	予め不安や要望等を聴き取り、サービス提供の内容を細かく伝えることで信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に知り得た情報から、利用者がその時に必要としている支援について助言を行っている。また、必要に応じて他のサービスに関する情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や生活に対する要望を聞き取り、できる限り要望に応えられるように支援している。家事や作業、レクリエーションなどは利用者と共にやり、家庭的な雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態に変化があった時は、家族にすぐ連絡を入れ、協力して対応している。また、多様な家族の要望に耳を傾け、共に利用者を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域の催し物、公園や飲食店、商店街での買い物など、時間を見つけては外出を行っている。	地域の敬老会や自宅の様子を見に出かけるなどの支援のほか、季節行事を多数開催してユニット間の往来もあります。また皇室の行幸に下田駅でのお出迎えは毎年の定例行事となり、祭典では子どもの頃から親しんだ伝統芸能を堪能しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のふれあいがしやすい様に、席替えや共同で一つのことに取り組んだり、利用者同士の会話の仲介をするなどして、利用者同士のコミュニケーションを図っている。ユニット間の交流を合同の行事を通じて実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や死亡されるなどで退所されてしまうと、これまでの関係性はほとんど途切れてしまうが、入院されている方の面会に伺う事はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にモニタリングや再アセスメントを実施している。本人への聴き取りや日頃の言動から利用者の意向の把握に努めている。	概ねどの利用者も発語があり、会話も充実しているため、日常の中で利用者の意向や好みを聞き取れており、3ヶ月毎のモニタリングでは記録を参考に再アセスメントに取り組んでいます。自分から発信しない利用者には職員から投げかけ、本意を聴き取るよう図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問によるインテーク、アセスメントによって情報収集を行っている。入居後も、本人や家族から随時情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントや日頃の会話、生活状況から個人の一日の過ごし方を把握し、個別に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に本人や家族から意向を確認し、担当職員から意見を聞きながら3ヶ月毎にモニタリングを実施し、介護計画書の見直しをしている。	リーダーと担当職員から聞き取り、計画作成担当者が原案を作成しています。介護計画書には本人の具体的な希望や目標に向けた細かな援助内容が記載され、長期目標の期間である半年毎にさらに詳細なアセスメントを実施して全面的な計画の見直しがあることを確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や支援内容等を、介護日誌や申し送りノートに記録し、職員間で情報を共有している。問題等があれば、その度に話し合いを行っており、その記録を計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具の購入、通院介助など、その時点で必要とされる支援を柔軟に行っている。リハビリを希望する利用者には訪問リハビリを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の指導による防災訓練の実施や、地区の駐在所と連絡を密にとり、巡回に来てもらうなど、安全な生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関をかかりつけ医にしておき、協力医が主治医である場合は、訪問診療が受けられる。必要な医療情報を口頭や文書で提供している。	入居時に自由に選択してもらった結果、大半が協力医に変更しています。協力医以外の受診や薬の受け取りは原則家族がおこなうことになっていますが、同行困難な場合には職員が代行しています(追加の費用徴収はおこなっていません)。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1回勤務しており、出勤日には1週間の状況を説明し、支持を貰っている。急変等があった場合は、24時間オンコール体制が整っており、指示や連絡等の連携が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、病院関係者と情報交換の場を持っている。医師からの、病状や説明の場にも家族に同意を得て同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、本人と家族に重度化した場合や終末期において当事業所が出来る事・出来ない事を説明している。現在看護師が常勤していない為、医療行為や看取りは当事業所では行えない事を事前に説明している。	家族には日常的に医療処置が必要な場合には対応できないことを説明したうえで、現状は非常勤看護師のみのため看取りが困難であることを契約時に理解してもらっています。そのため退院後は医師、家族を交えて方針を協議して処遇先を決めるに至っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、職員は消防署にて緊急時の応急手当の講習を受けている。緊急時や事故発生時の対応マニュアルを備え、誰もが実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルは職員が見やすい場所に置いている。一般防災訓練には家族や地域住民にも参加を呼び掛けている。また、地域で行われる防災訓練にはなるべく参加するようにしている。	本年度は実際に他地域で起きた自然災害に基づき、非常食に着目し、備蓄場所を移動させています。毎年、自治会と連携のうえ地域防災訓練にも加わり、また災害時は電波情報、行政や同報無線を取り入れて避難の決断をおこなう手順が定められ、マニュアルにも記されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人職員には、利用者の人格の尊重とプライバシーの保護について内部研修を行っている。普段から年長者を敬い、相手の気持ちを傷つけないような声掛けを行っている。	表情や態度から要望を把握して興味や嗜好を推量したりと、職員側から試みては本人の意向を汲み取っています。実際、ティータイムにはドリンクバーで利用者の好みに合わせた飲料を提供していて、また丁寧語や謙譲語が入る職員の言葉には敬おうとの誠意が感じられます。	成年後見人がついているケースでは、小遣いの収支を報告していますが、毎月の利用状況なども併せて伝え、さらに信頼を厚くすることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方的に物事を決めないで、利用者が意思表示できる場面を作り、いくつもの選択肢の中から自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共通の日課に縛られず、利用者の意思や体調に合わせて、その人のペースで一日を過ごして頂いている。食事時間、入浴時間、起床時間も状態によって個別の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は職員の判断のみで行わず、本人の希望をうかがい、気に入った衣服を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、季節に合った献立を取り入れたり、調理や食事の盛り付け、片付けなどを手伝って頂いている。収穫した野菜の調理法を利用者に聞き、食事に提供している。	食前には口腔体操で食欲増進を図り、また菜園の手作り野菜も利用しつつ、各自が好きな分量を取り分けることで自立を支援しています。時節の行事食やユニット合同での食事会も開催していますが、普段からテーブルに職員が交じり、一般家庭のような食事風景です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに必要とされる水分補給を行い、状態によってはトロミをつけるなどの工夫をしている。献立が偏らないように献立表を見て食事を作っている。食事形態も咀嚼や嚥下状態を確認し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、その人に合った方法で歯磨きやうがい、義歯の手入れを支援している。うがいのできない人には歯ブラシやガーゼで汚れを取り除くなど、個人に合わせた介助をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら、個人の排泄パターンを把握し、個人にあった排泄方法を決めている。早めのトイレ誘導や適切な排泄用具を使用する事で、失禁を事前に防いでいる。	各ユニットとも家庭用トイレの他に、車いすが通れ手すりが充実したトイレが設置されています。排泄介助は「最も羞恥心に配慮が必要」とし、声かけや対応を「より丁寧に」ということとともに、「尿臭がしないように」ということを全員が一様に意識しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫したり、空腹時にも牛乳を飲んで貰うなどといった便秘対策を行っている。また、便意がなくともトイレに座る習慣が身につくようにトイレ誘導を行ったり、重度の便秘症の方には薬による排便コントロールも実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の意思確認を行い、健康チェックをした上でその人にあった入浴介助を行っている。入浴時間も柔軟性を持たせ、入浴回数や曜日は限定していない。	浴槽の手すり、滑り止めマット、シャワーチェアと、用具の充実さに「気持ちよく入浴してもらいたい」との思いが滲みます。以前は入浴拒否もありましたが、マンツーマン介助をおこない、入浴剤や会話を以て楽しめる工夫をおこなったことにより無くなり、定期的な入浴が実現しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思表示や移動が出来ない方には疲れ具合や時間を見て、居室へ誘導している。日中は適度に体を動かす活動支援を行っている。就寝前には声掛けを行うなどして、利用者に安心して眠って貰える様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誰もが常に説明できるように分かりやすい場所にファイリングしてある。状態の変化により薬の追加や変更などがあった場合は、スタッフに文章と口頭による説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や関心事を把握した上で、その人に合った役割や作業、レクリエーション、外出などの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った日常的な外出支援は充分ではないが、地域のイベントや行事、花見、ドライブ、外食といった外出支援は多く実施している。	急こう配の立地のため徒歩外出は困難です。そのため、ウッドデッキを改修してお茶を飲みながら屋外の展望を眺める時間をつくったり、近くの海浜公園までドライブで個別外出したりとの工夫をおこなっています。市外の遠出も多く、最近では伊豆市のテーマパークにでかけています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向もあり、お金は利用者が所持せず職員が管理を代行している。入居者様やその家族の希望に応じて買い物をする場合は、利用者にお金を渡して支払って貰うなどの援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎを行っている。利用者宛に手紙が届いた際には、本人に手渡ししている。しかし、手紙の内容が理解できないといった方の場合は、利用者の同意をとった上で、内容を代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関スペースやフロアー、廊下等に展示物や装飾品、花などを飾り、季節感や生活感を感ぜられるようにしている。居室や共用の空間の温度調節もこまめに行っている。	2階ユニットでは電灯をLEDにしてより明るくなり、以前は装飾が幼稚だったとの反省から、近年は落ち着いた空間づくりを凝らし、また廊下の壁紙を一新しています。1階ユニットでは設置型スクリーンとプロジェクターで、映像音響を充実させており、「建物が古い」を払拭させる日々の努力が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファやいすを置いてくつろげるようにしている。利用者の席も対人関係を考慮してリラックスできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前まで使っていた家具や本人が大切にしていたものを持ち込んで貰える様に、家族に協力をお願いしている。	広さの異なる数種類の居室があり、料金も個別に設定しています。作品や写真、家族が用意した小物が生活感漂う居室をつくり、2階は保養所の客室だった個室を改修していますが古臭い感じはなく、落ち着いた部屋として仕上がっています。	居室によっては通常よりかなり広く、特に入居直後は殺風景にならないような部屋づくりが進められることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	保養所を改築した建物である為、高齢者にとって使い辛いところもあるが、安全やプライバシーに配慮した改修を随時行っている。手すりの増築や段差の解消やスロープなどのバリアフリー化を入居者様の状態に応じて実施している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270200203		
法人名	株式会社 菱南		
事業所名	ケアビレッジ須崎(ユニット2 夕風)		
所在地	静岡県下田市柿崎999-2		
自己評価作成日	平成28年8月23日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokansaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiryouvoCd=2270200203-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kairokansaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiryouvoCd=2270200203-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年9月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>①利用者一人ひとりの心身状態を見極めて、日常生活動作は出来る限り利用者本人に行き、残存機能を活かしたケアを行っています。また、趣味・趣向に応じて家事や作業、レクリエーション等のアクティビティーケアを実施しております。</p> <p>②利用者本人が選択できる場を日常生活の中で取り入れ、利用者と職員が共感できる関係、笑顔が自然に表情に表れるようなアットホームでなじみの関係を築いています。</p> <p>③地域行事の参加、園児、小中学生との交流や、体験学習の受け入れ、ホームの行事に家族や地域の方々を招待するなど、地域との関わりを積極的に行っています。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>「地域資源を生かし、またその魅力を引き出す」ことに長けた事業所です。従来より黒船祭りなど地元のほとんどの行事に出向き、生徒やボランティアの受入れ、防災訓練への参画etc...と精力的でしたが、近年の取組みとして「地域住民も交えた近隣施設との合同会議」や「西伊豆町や東伊豆町のグループホームとの交流、職員の実習派遣」等があります。本件においても認知症知識の啓発活動の一つの成果として位置付けていますが、一方法人では認知症カフェの設立も併せておこない、事業所でも協力するとともに、「利用者の新たな活力となれば」と期待を寄せています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が理念を理解し、答えられるような内容にしている。 新人職員には入職時にその理念を説明している。職員会議で理念に沿ったケアが出来ているかどうかの確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域のイベントや地区の祭り見物、中学生の福祉体験の受け入れ、保育園児や小学生との交流、ホームの行事や防災訓練等に地域の人の参加がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護事業所や入居相談者からの認知症に関する相談対応、ホームにおける認知症のケアや支援内容、待機者状況を関係機関に説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの運営状況・サービス提供内容について報告し、会議録を家族に送付している。また、メンバーの意見を内部の会議で報告するだけでなく、職員から意見を聞き、サービスの改善に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業代表者等が市に運営に関する状況を伝え、助言を頂いている。介護支援専門員連絡会ではホームの空き情報を伝え、運営推進会議では市職員にサービス提供内容を報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを推進している。 玄関は夜間のみ防犯や事故防止の観点から施錠している。 職員は内部・外部の研修に参加し、身体拘束に関する理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員には、虐待について研修を実施している。虐待防止マニュアルを作成している。また、会議等で虐待をしないという共通認識を固めると共に、共有し、その事実がない事を確認し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加できる機会が少なく、個人で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、もしくは入居までに重要事項説明書や契約書の内容について説明し、不安や疑問についても聞き取り、納得して頂けるように十分な説明を行う事で内容の理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や月1回の手紙で、日常の様子を家族に伝えている。意見箱を設置し、家族の声に耳を傾けている。運営推進会議では家族代表から意見を伺い、ホームの改善に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常のケア場面で職員の意見を引き出すようにしている。管理者の意見を事業者に伝え、必要に応じて、事業者が職員に対し、ヒアリングを実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者は、管理者から職員の意見や勤務状況の情報を得ることで改善できる事を実行し、働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や管理者が重要と判断した研修に限り、業務として参加して貰っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所合同研修会や介護事業所の連絡会に参加している。他のグループホームと互いに連絡を取り合い、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人や家族から不安や要望等について聞き取りを行い、不安を取り除くような説明をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	予め不安や要望等を聴き取り、サービス提供の内容を細かく伝えることで信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に知り得た情報から、利用者がその時に必要としている支援について助言を行っている。また、必要に応じて他のサービスに関する情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や生活に対する要望を聞き取り、できる限り要望に応えられるように支援している。家事や作業、レクリエーションなどは利用者と共に、家庭的な雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態に変化があった時は、家族にすぐ連絡を入れ、協力して対応している。また、多様な家族の要望に耳を傾け、共に利用者を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域の催し物、公園や飲食店、商店街での買い物など、時間を見つけては外出を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のふれあいがしやすい様に、席替えや共同で一つのことに取り組んだり、利用者同士の会話の仲介をするなどして、利用者間のコミュニケーションを図っている。ユニット間の交流を合同の行事を通じて実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や死亡されるなどで退所されてしまうと、これまでの関係性はほとんど途切れてしまうが、入院されている方の面会に伺う事はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にモニタリングや再アセスメントを実施している。本人への聴き取りや日頃の言動から利用者の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問によるインテーク、アセスメントによって情報収集を行っている。入居後も、本人や家族から随時情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントや日頃の会話、生活状況から個人の一日の過ごし方を把握し、個別に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に本人や家族から意向を確認し、担当職員から意見を聞きながら3ヶ月毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や支援内容等を、介護日誌や申し送りノートに記録し、職員間で共有している。問題等があれば、その度に話し合いを行っており、その記録を計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具の購入、通院介助など、その時点で必要とされる支援を柔軟に行っている。リハビリを希望する利用者には訪問リハビリを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の指導による防災訓練の実施や、地区の駐在所と連絡を密にとり、巡回に来てもらうなど、安全な生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関をかかりつけ医にしておき、協力医が主治医である場合は、訪問診療が受けられる。必要な医療情報を口頭や文書で提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1回勤務しており、出勤日には1週間の状況を説明し、支持を貰っている。急変等があった場合は、24時間オンコール体制が整っており、指示や連絡等の連携が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、病院関係者と情報交換の場を持っている。医師からの、病状や説明の場にも家族に同意を得て同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、本人と家族に重度化した場合や終末期において当事業所が出来る事・出来ない事を説明している。現在看護師が常勤していない為、医療行為や看取りは当事業所では行えない事を事前に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、職員は消防署にて緊急時の応急手当の講習を受けている。緊急時や事故発生時の対応マニュアルを備え、誰もが実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルは職員が見やすい場所に置いている。一般防災訓練には家族や地域住民にも参加を呼び掛けている。また、地域で行われる防災訓練にはなるべく参加するようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人職員には、利用者の人格の尊重とプライバシーの保護について内部研修を行っている。普段から年長者を敬い、相手の気持ちを傷つけないような声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に物事を決めないで、利用者が意思表示できる場面を作り、いくつもの選択肢の中から自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共通の日課に縛られず、利用者の意思や体調に合わせ、その人のペースで一日を過ごして頂いている。食事時間、入浴時間、起床時間も状態によって個別の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は職員の判断のみで行わず、本人の希望をうかがい、気に入った衣服を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、季節に合った献立を取り入れたり、調理や食事の盛り付け、片付けなどを手伝って頂いている。収穫した野菜の調理法を利用者に聞き、食事に提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに必要とされる水分補給を行い、状態によってはトロミをつけるなどの工夫をしている。献立が偏らないように献立表を見て食事を作っている。食事形態も咀嚼や嚥下状態を確認し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、その人に合った方法で歯磨きやうがい、義歯の手入れを支援している。うがいのできない人には歯ブラシやガーゼで汚れを取り除くなど、個人に合わせた介助をしている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら、個人の排泄パターンを把握し、個人にあった排泄方法を決めている。早めのトイレ誘導や適切な排泄用具を使用する事で、失禁を事前に防いでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫したり、空腹時にも牛乳を飲んで貰うなどといった便秘対策を行っている。また、便意がなくともトイレに座る習慣が身につくようにトイレ誘導を行ったり、重度の便秘症の方には薬による排便コントロールも実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の意思確認を行い、健康チェックをした上でその人にあった入浴介助を行っている。入浴時間も柔軟性を持たせ、入浴回数や曜日は限定していない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思表示や移動が出来ない方には疲れ具合や時間を見て、居室へ誘導している。日中は適度に体を動かさず活動支援を行っている。就寝前には声掛けを行うなどして、利用者に安心して眠って貰える様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誰もが常に説明できるように分かりやすい場所にファイリングしてある。状態の変化により薬の追加や変更などがあった場合は、スタッフに文章と口頭による説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や関心事を把握した上で、その人に合った役割や作業、レクリエーション、外出などの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った日常的な外出支援は充分ではないが、地域のイベントや行事、花見、ドライブ、外食といった外出支援は多く実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向もあり、お金は利用者が所持せず職員が管理を代行している。入居者様やその家族の希望に応じて買い物をする場合は、利用者にお金を渡して支払って貰うなどの援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎを行っている。利用者宛に手紙が届いた際には、本人に手渡ししている。しかし、手紙の内容が理解できないといった方の場合は、利用者の同意をとった上で、内容を代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関スペースやフロアー、廊下等に展示物や装飾品、花などを飾り、季節感や生活感を感じられるようにしている。居室や共用の空間の温度調節もこまめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファやいすを置いてくつろげるようにしている。利用者の席も対人関係を考慮してリラックスできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前まで使っていた家具や本人が大切にしていたものを持ち込んで貰える様に、家族に協力をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	保養所を改築した建物である為、高齢者にとって使い辛いところもあるが、安全やプライバシーに配慮した改修を随時行っている。手すりの増築や段差の解消やスロープなどのバリアフリー化を入居者様の状態に応じて実施している。		